

授業科目(ナンバリング)	哲学 (AB112)			担当教員	木村 勝彦		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	1 年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
この講義では、西洋哲学史における知の巨人たちの問題提起を概説しながら、特に近代以降の主要な学説を紹介していく。現代の学問諸領域に影響を与えた西洋近現代哲学の主要な学説についての理解を深め、真理を本質的に問うという知的態度の重要性を自覚して、全学共通科目の主たる役割である人間形成の基盤づくりに結びつけていくことが、この講義の到達目標である。							①③
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	哲学の専門的な学術用語および西洋哲学史の主要な学説についての確に説明することができる。				・定期試験	10%	
情報収集、分析力	現代社会のさまざまな局面における具体的事例について情報を収集し、そこから哲学的問題性を指摘することができる。				・定期試験 ・課題レポート	30% 10%	
コミュニケーション力	哲学において示されてきた独自の概念と視点とについて、主体的な意見を提示することができる。				・受講態度・授業への参加度	10%	
協働・課題解決力	自らの専攻する学問分野の問題に関連づけて、哲学の論理的な思考・判断によって具体的な問題の解決に寄与することができる。				・定期試験	10%	
多様性理解力	真理を本質的に問うという哲学の知的態度にならい、真理へのアプローチには多様な方途があることを考えることができる。				・課題レポート	30%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
評価は定期試験 50%、課題レポート 40%、授業態度・授業参加 10%の配分で行う。定期試験は筆記試験により行い、哲学の専門用語の的確な説明とさまざまな学説の理解度を評価基準とする。課題レポートは課題への取組み方と内容、授業態度・授業参加はレポート提出状況によって評価する。なお、フィードバックは授業のなかで適宜行う。							
授業の概要							
この授業では、講義内容をまとめたプリントを毎回配布し、重要な語句や関連する映像資料等をパワーポイントによって提示しながら解説する。また授業の最初には、課題レポートの解答を示し、内容に関する説明を行う。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。							
教科書・参考書							
教科書：特に指定しない。 参考書：木村勝彦・森戸勇『西欧倫理の思想史像』勁草書房 指定図書：木村勝彦・森戸勇『西欧倫理の思想史像』勁草書房							
授業外における学修及び学生に期待すること							
いかなる専攻分野であれ、それぞれの研究を深めて有意義なものとするためには、真理を本質的に問うという知的態度は不可欠であり、その意味では哲学を学ぶことには大きな意味があるものと思われる。「存在」「認識」について根源的に問う哲学の諸学説には難解な部分も多いが、積極的な関心をもって授業に臨み、学問的探究を深めていくための契機として欲しい。また授業のなかで紹介された哲学者たちの著作をはじめ、関連する書籍を実際に幅広く読むことを期待する。意欲的かつ真摯な学習態度を要求する。授業中の私語や理由のない遅刻・途中退回は許さない。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	導入	哲学は「知を愛し求める」という意味のギリシア語フィロソフィアを語源とする。その言葉の意味を問い直し、哲学とはどのような学問かを概説する。	哲学の学術用語の整理・復習 ギリシア哲学に関する予習
2	古代ギリシア哲学の概観	ロゴス（理性）の力によって万物の根源を問おうとしたミレトス派の人々や、ソクラテス、プラトン、アリストテレス等の哲学の論点とその意義を概観する。	古代ギリシアについての整理・復習 中世哲学に関する予習
3	中世キリスト教哲学の概観	キリスト教神学と不可分な中世哲学を、トマス・アクィナス、アンセルムス、オッカムらを中心に概観し、その論点が近代哲学の源となったことを確認する。	中世キリスト教哲学についての整理・復習 ルネサンスに関する予習
4	ルネサンスの哲学	人間中心主義としての「ヒューマニズム」の時代であるルネサンスの哲学史における意義を確認し、ルネサンス期の特異な哲学者たちの群像を紹介する。	ルネサンスの哲学についての整理・復習 宗教改革に関する予習
5	宗教改革と科学革命	ヨーロッパの思想界に大きな変動をもたらした宗教改革の思想的意義と、近代の本格的な幕開けを告げた科学革命の文明的意義について述べる。	宗教改革・科学革命についての整理・復習 経験論哲学に関する予習
6	経験論の哲学Ⅰ	知識の源泉を「経験」に求める経験論哲学のなかから、F.ベーコンの帰納法的思考の意味と、ホブズの唯物論的人間観について述べる。	F.ベーコンとホブズについての整理・復習 ベンサムに関する予習
7	経験論の哲学Ⅱ	経験論哲学のなかからロック、パークリ、ヒュームの3人を取り上げ、それぞれが人間知性をどのように捉え、経験をどのように意味づけたかについて述べる。	ロック、パークリ、ヒュームに関する整理・復習 デカルトに関する予習
8	合理論の哲学Ⅰ	合理論の哲学のなかから近代哲学の確立者デカルトを取り上げ、精神と物質の二元論という彼の立場と、それに基づく演繹的思考法の意義について述べる。	デカルトに関する整理・復習 スピノザに関する予習
9	合理論の哲学Ⅱ	合理論の哲学のなかからスピノザの汎神論とライプニッツのモノドロジーについて紹介し、形而上学という哲学のあり方が意味するものについて述べる。	スピノザ、ライプニッツについての整理・復習 カントに関する予習
10	カントの批判哲学Ⅰ	形而上学的な問いを人間理性の特殊な運命としながらも、問いを発する理性そのものの批判を哲学の課題としたカントの批判哲学の意義について述べる。	カントの批判哲学の主要概念についての整理・復習 観念論に関する予習
11	カントの批判哲学Ⅱ	「物自体」と「現象」という区分によって認識論の分野に比類なき影響を与えたカントの超越論的観念論を概説し、その意義について述べる。	カントの超越論的観念論についての整理・復習 ドイツ観念論に関する予習
12	ドイツ観念論の哲学	カントの批判哲学を継承しながらも、それを独自の立場で乗り越えようとしたヘーゲルなどのドイツ観念論の哲学を概説し、その意義について述べる。	ドイツ観念論についての整理・復習 実存の思想に関する予習
13	実存の哲学Ⅰ	現代の哲学思想のみならず、文学・芸術にも大きな影響を与えた実存の哲学について、その先駆者とも言うべきキルケゴール、ニーチェの思想を中心に述べる。	キルケゴール、ニーチェについての整理・復習 実存主義に関する予習
14	実存の哲学Ⅱ	20世紀における哲学思想の巨人であるヤスパース、ハイデッガーの実存哲学と、サルトルの実存主義の哲学を概説し、その意義について述べる。	実存哲学、実存主義についての整理・復習 現象学に関する予習
15	現象学と解釈学	現代において最も広範に議論され、各学問領域に援用され続けている哲学の潮流である現象学と解釈学を概説し、その主要な論点と意義について述べる。	現象学、解釈学についての整理・復習 授業全体の整理
16	定期試験	筆記試験	筆記試験の準備